

研究の動機

私たちは2015年の明治安田生命J1リーグ（以下J1リーグ）18チームから選出されたベストイレブンを見て、これがいったいどういう項目、観点から見た評価なのか、そしてそれは正しく評価されているのかということに興味、また疑問を持ち調べようと思った。

疑問そして仮説

私たちはまず公表されたベストイレブンを見て偏りがあると感じた。J1のクラブが18チームあるのに対し選ばれた11人の選手が所属しているクラブはわずか5チーム。なぜこのような結果になっているのか、ある仮説を立てた。

仮説

ベストイレブンに選ばれるためにはいわゆる人気クラブに所属し、かつチームの成績が大きく関わってくる。また、日本代表などの国際試合に選出されている選手もベストイレブンに選出されやすい。

検証方法

各ポジションごとに評価項目を決めその評価項目ごとに対象の選手の偏差値を割り出す。そして各評価項目の偏差値の和を最終的な評価の決定値とし順位を調べる。尚、対象の選手は公表されているベストイレブンの評価基準と同様に17試合以上出場している選手とする。各ポジションの評価項目は次の通りである。

GK・・・①公式出場合計を失点合計で割ったもの ②セーブ率 ③ロングフィード成功率 ④スロー成功率 ⑤キック成功率 ⑥ゴールキック成功率
DF・・・①タックル成功率 ②インターセプト数 ③カード数（少ないと高評価） ④空中戦勝率
MF・・・①パス成功率 ②トラップ成功率 ③ドリブル成功率 ④スルーパス成功率
FW・・・①ゴール数 ②シュート枠内率 ③シュート数

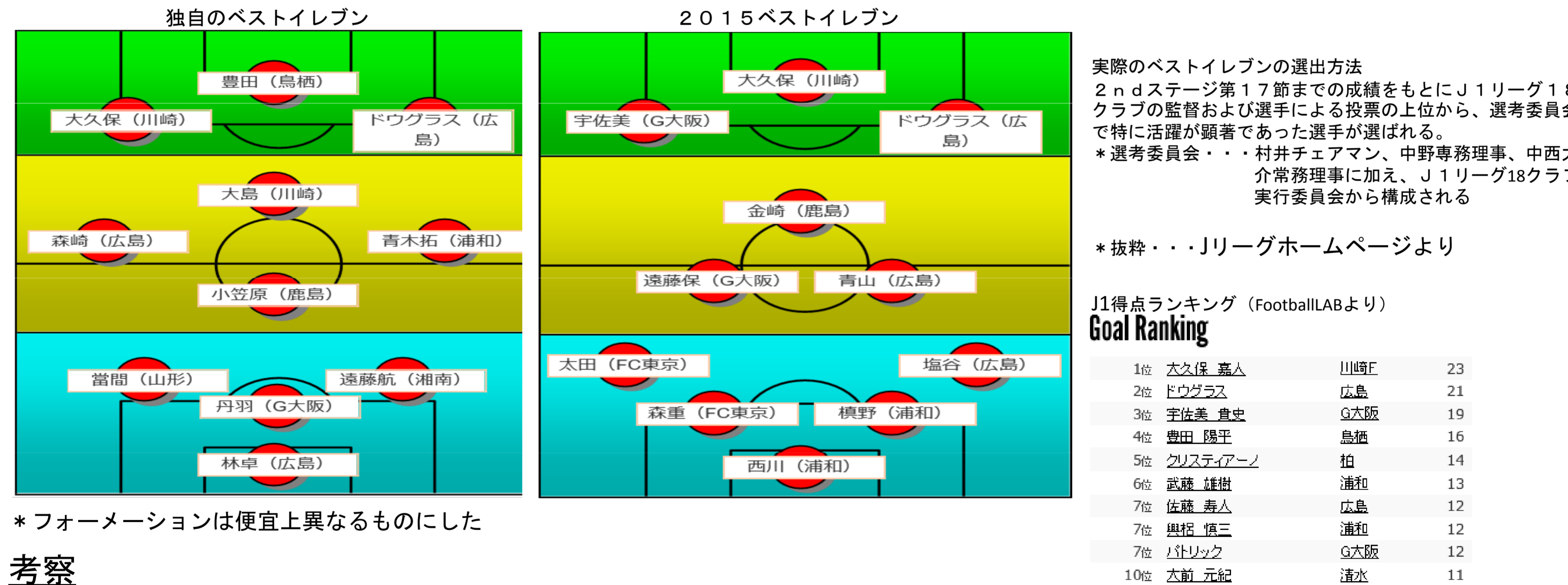
結果

以上の行程を行い各ポジションの上位5人を次に示す （ ）内は所属チームを示す

また、赤字はベストイレブンに選出された選手、青字は優秀選手に選出された選手

GK・・・1位 林卓人（広島） 2位 東口（G大阪） 3位 曾ヶ端（鹿島） 4位 新井（川崎） 5位 菅野（柏）
DF・・・1位 丹羽（G大阪） 2位 遠藤航（湘南） 3位 當間（山形） 4位 橋爪（甲府） 5位 西（鹿島）
MF・・・1位 青木（浦和） 2位 森崎（広島） 3位 大島（川崎） 4位 小笠原（鹿島） 5位 遠藤保（G大阪）
FW・・・1位 大久保（川崎） 2位 豊田（鳥栖） 3位 ドウグラス（広島） 4位 佐藤（広島） 5位 武藤（FC東京）

そこで私たちは独自のベストイレブンをつくりだし、公表されているベストイレブンと比較した



* フォーマーションは便宜上異なるものにした

考察

GK・・・2015ベストイレブンに選出された選手（西川（浦和）について（下線部が最も大きな要因））

- ・1stステージ優勝チームの守護神であること
- ・2ndステージ第12節（vs鹿島）での活躍（被シュート27本と守勢に回る場面が多い中スーパーセーブを連発し相手の決定機をことごとく防いだ）
- ・正確なフィード→攻撃の起点となったこと
- ・当時日本代表のGKにも選出された

データ上1位の林（広島）との相違点とその理由・・・評価項目において西川選手は決して点数は高くなかった。しかし西川はスーパーセーブ、すなわち点数に表れずかつ記憶に残るプレーが評価された要因となっている。このことからベストイレブンに選ばれるためには、正確性というよりむしろ派手なプレーをすることが求められていると考えた。その点において、人気というものも無視できないのではないのだろうか。

DF・・・2015ベストイレブンに選出された選手について→年間優勝のチームから一名（塩谷：広島）、1stステージ優勝のチームから一名（槇野：浦和）、日本代表に選出経験のある選手が一名とやはり人気という点では申し分のない選手が選出されている。

データ上の選手との比較について→まず西（鹿島）と遠藤（湘南）については優秀選手に選出されているので比較対象から除外する。當間（山形）と橋爪（甲府）について、出場試合数の不足が選出されていない大きな要因と考えられる。そのため評価項目の母体数がほかの選手より少ないので成功率が高くなったといえる。公表されたベストイレブンの選手は最低でも27試合以上の出場とやはり出場試合は重要な評価項目といえるだろう。

MF・・・2015ベストイレブンに選出された選手について→青山（広島）、金崎（鹿島）その年の1位、2位のチームから選出されている。遠藤についてはデータ上で5位に入っているため、比較対象としない。

データ上の選手について→評価項目とした4項目において、上位の選手はCMFの選手、すなわちピッチの中央でプレーする選手が多く、また技巧派と呼ばれる選手が目立つ。このためプレーの正確性に秀でた選手が選ばれたといえる。

FW・・・2015ベストイレブンに選出された選手について→J1得点ランキング1位、2位、3位の選手がそろって選出されている。名実ともに妥当な結果といえる。

データ上のとの比較について→評価項目の特性としてシュートに特化された算出方法でありストライカー性の高い選手が選出されやすいといえる。その点でJ1得点ランキングと類似した順位となったことは納得の結果である。しかし、ベストイレブンに選出された宇佐美がデータ上では9位である。その理由としては宇佐美はシュート数そのものの数は非常に多いがシュート枠内数が少ない。そのためシュート枠内率が群をぬけて低く、それに応じ順位が低くなったと考えられる。

まとめ

人気も選手にとって重要な要因の1つであるので一概に現制度を否定することはできない。しかし、所属クラブに関わらず、高い精度でプレーした選手が注目をあびてもいいのではないのだろうか。

そして戦術理解度など数値化できない要素が大切にされているということがこの結果から読み取れる。